

東京バッハ合唱団 月報

[第 564 号] 2009 年 6 月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.564
June 2009

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

東京バッハ合唱団 創立 47 周年記念懇親会へのご案内

7 月 6 日(月) 18:30 - 21:00 目白聖公会

1962 年 7 月 1 日に発足した当合唱団の創立記念の祝会は、毎年欠かさず 7 月 1 日前後に催され、あるときは講演・座談・演奏などをふくめて、日ごろ顔を合わせる機会の少ない団員と、団友・後援会員、支持者のみなさま方との懇親・交流の場となってきました。

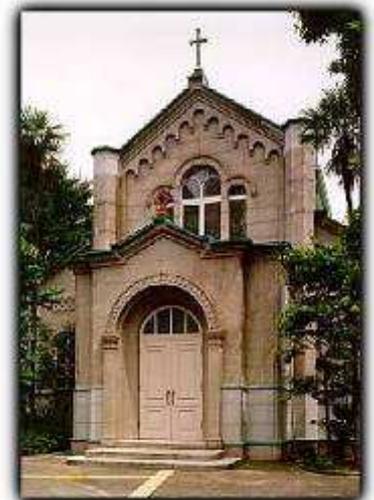
今年は、8 月 7 日から 16 日の第 5 回ヨーロッパ演奏旅行を目前にして、その壮行会もかねて、大いに盛り上げたいと思っています。とくに過去 4 回の演奏旅行に参加なさった方々の思い出話や、旅行中に得られた貴重な体験談、ご感想等々をお聞かせいただければありがたいと思います。

また合唱団側としては、これまでに思いがけず多数の方々から、お励まし、ご賛同のおこぼを添えた多額のご寄付を寄せられましたので、中にはお目にかかったことのない方々もいらっしゃる、この機会にぜひ直接、御礼を申し上げたいと願っております。ご参加いただきたく、お待ちしております。

お励ましへの御礼をかねて、「夏目漱石書簡集から」と題した手製の小冊子をお届けしましたが、これからさらに、出発までに、目標額を満たすために、ご寄付をお寄せくださる方々にも、当日、この小冊子を用意いたしますので、どうぞお申し出ください。

当日は、自由な歓談を主に、団員が軽食を用意し、また旅行のための資金づくりにバザー・コーナーも設けます。献品、お買い上げ、ともによろしく願います。フライブルク、シュトゥットガルトの受け入れ側の方々へのお土産おこづけも、よろこんで承ります。

なお、記念会の会場とさせていただきます目白聖公会(写真・地図とも：目白聖公会のホームページより)は、東京バッハ合唱団の創立の当初(1964 年 5 月)より、毎週月曜日の練習会場として、敷地内の集会所を、40 年以上にわたり変わらずご提供くださっています。この教会の会員でいらっしゃる辻莊一先生(故人 1895-1987。わが国の音楽史、バッハ学の先駆者、当合唱団の創立時の顧問)のお世話によるものでした。この会場では、辻先生のゼミナールや講演会もたびたび催させていただき、晩年のご著書の“執筆のきっかけを与えていただいた”と、ご恵贈本の扉に書き込んでくださったりもした、そんなご縁もあるところです。私たちの合唱団の歴史にとって、書き落とすことのできない施設といえましょう。



東京バッハ合唱団 創立 47 周年記念懇親会

< 日時 > 2009 年 7 月 6 日(月)

開会 18:30 - 終了 21:00

< 会場 > 目白聖公会 集会所

(JR 山手線・目白駅下車徒歩 5 分 左側)

< 参加費 > 1000 円

(軽食代含む・当日受付にてお支払いください)

< お申し込み・問い合わせ > 合唱団事務局

郵便はがき(〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101)

TEL (03-3290-5731) Fax (03-3290-5732)

E-mail (bachchortokyo@aol.com)

等で、お申し込みください。

準備の都合がありますので、6 月 25 日頃までにお知らせいただければ幸いです。



< 第 5 回ヨーロッパ演奏旅行 >

フランス・アルザスの町、
Colmar(コルマール)と Riquewihr(リックヴィル)

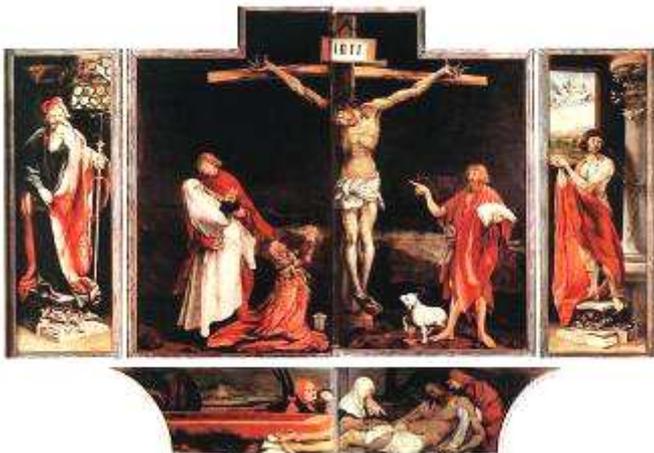
コルマールは、ストラズブールから南へ 70 キロほどの位置にあります。第二次世界大戦の激戦地のひとつであったアルザス地方にありながら、奇跡的に戦禍を免れて、いたるところにこの地方独特の、木組みの家の街並みや石畳の道など、中世からルネサンスにかけての面影

が残ります。とくに、パステル調の家並みが運河の水に映える「小ヴェニス」と呼ばれる界隈などは観光の名所で、今回の旅でも、散策が予定されています。



街の中心にあるウンターリンデン美術館は、16 世紀の画家グリューネヴァルトの「イーゼンハイムの祭壇画」(下図)で知られています。受難曲のレコードやCDジャケットの定番ですから、多くの方に見覚えがあると思います。第 1 回演奏旅行(1983 年)では、ストラズブールからジュネーヴへのバスでの移動の途中に、美術好きの団員から「沿道のコルマールに寄ってグリューネヴァルトを見たい」という要望があり、急遽の見学が実現したものでした。今回は始めから予定に組み込んであります。

コルマール：アルザス地方、オー＝ラン県(上流部＝ライン河地域)の県庁所在地。人口 6 万 7000 人(2006 年)。中世以来の歴史をもつ街であり、13 世紀に神聖ローマ帝国自由都市となる。17 世紀後半、アルザス地方がフランス王国に割譲されるとともに、ドイツ文化圏の当地もフランス領アルザスの一都市となった。普仏戦争でのフランス敗退により、1871 年ドイツ領エルザス＝ロートリンゲン州の一部となるが、第一次大戦後の 1918 年フランス領へ再編入、さらに第二次大戦の際、フランスがドイツに降伏すると、1942 年コルマールにもドイツ国防軍が進駐した。連合軍による最終的な解放は 1945 年 2



月のこと。この地域の目まぐるしい争奪は、ストラズブールも含めたアルザスの一般的な歴史として、知っておく必要がある。

リックヴィルは、コルマールから北西へ 10 数キロの近郊にあります。一面のブドウ畑に囲まれ、アルザスのワイン街

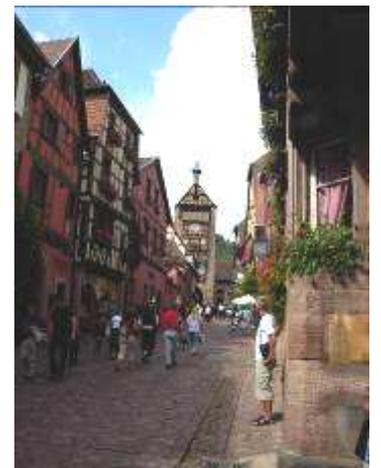


道の中心的な町です。写真は、秋の実りをむかえるブドウ畑から望んだ景観。生産されるリースリング・ワインは、古今を通じてたいへん愛好されています。コルマール同様、戦禍を免れて今日にいたっています。

良質なワインのおかげで、リックヴィルの町と住民たちは、14 世紀以来の支配者たちに対抗しつづけることができたそうです。フランス革命まで、ヴェルテンベルクの貴族たちが、この町の宗主となっていました。1539 年にできた城の東側に、1790 年開放されるまでを記録した博物館があり、1291 年にできたドルダー門、16、17 世紀から続くいくつかの旧家の屋敷、なども残っています。

人口はわずかに 1273 人(2006 年)という小さな町ですが、収穫期には数万の観光客でにぎわうのだそうです。

[イーゼンハイムの祭壇画 <左>とブドウ畑 <右上>を除く、このページの写真は 2008 年 8 月大村撮影]



ソウルからの呼びかけ

大村恵美子先生

2009年5月6日、韓国にて 崔 順育
ご無沙汰いたしました。私のことを覚えていらっしゃる
いますか。私は、2004年ソウル神学大学にて開催された
「韓・日ボンヘッファー学会 国際学術大会」の通訳を
担当させていただきました崔順育と申します。その節は
大変お世話になりました。

先生との出会いは、一度も忘れることもないほど印象
的でした。おかげさまで博士号[樋口一葉研究]は無事
取らせていただきました。先生の送ってくださった本も
引用させていただきました。ありがとうございます。

その後お変わりありませんか。(.....)東京バツハ合
唱団のホームページを訪ねますと、5月には荻窪教会で
演奏会があり、8月7日からはドイツにいらっしゃる予
定なのですね。私は延世(ヨンセ)大学の教会に通いなが
ら、聖歌隊で奉仕しております。おもに延世大学の教会
音楽大学の学生がメンバーで、指揮者の先生も教会音
楽大学の先生でございまして、バツハを特に愛してお
ります。

日ごろ私は、まわりの人びとに、大村先生のことをお
話していましたが、それで皆さんの好奇心がそそられた
らしく、東京バツハ合唱団とのお付き合いを是非ともや
りたいということで、早速ですがこのようにメールをお
送りいたします。

延世大学音楽大学の学生さんたちのCC(Concert
Choir)が、日本で東京バツハ合唱団を中心に会してい
けることを願っております。このCCは、バツハの曲が
大好きで、毎年クリスマスとイースターにはバツハを歌
ってきました。バツハを愛している共通点を理解してく
ださって、一度両側の合唱団の出会いができるように力
になっていただけませんか。

韓国での演奏もいかがでしょうか。延世大学の教会音
楽科のみなさんも、大村恵美子先生のバツハの合唱団が
韓国でぜひ演奏なさることを期待しております。これか
らの交流を心から祈っております。

.....

ベルリンからも懐かしいおたより

数日の短いソウル滞在中、韓国キリスト教会の方々の
明るく積極的なお交わりに心うたれ、それ以来5年、は
じけるようなメールが舞いこみました。これからの交流
がパッと開けそうです。

ひきつづいて今度は、1997年(第4回演奏旅行)に、
ベルリンで協演していただいたオーケストラのリーダー、
H.カッツァー氏から、私たちを思い出して、今年10
月のコンサートへのお誘いのメールが届きました。ご要
望に応じてまたベルリンに出向きたい気持ちにもなります
が、現実はそのややすくありません。

でも、ソウルからも、ベルリンからも、私たちの8月
の演奏旅行の成功を、祈ってはげましてくださるのを、
私はとてもありがたく、うれしく思います。世界は一つ、
私たちは一つ、という思いです。(大村恵美子)

星野弥生 編著・訳

『父ゲバラとともに、勝利の日まで』

アレイダ・ゲバラの2週間』

先月号の月報でご紹介した宮田親平様同様、本書の編
著者は当合唱団の初期からの親しい後援会員で、彼女が
深くかかわっておられる「ベンポスタ子ども共和国」の
サーカスを、私たちも見にいったり、その映画を鑑賞し
たりした一時期をおぼえている方もいらっしゃるでしょ
う。阪神淡路大震災の被害を忘れない運動、子どもいの
ちのネットワーク、チャイルドライン、保坂展人代議士
(社民党)の応援団.....、その目覚しい活躍の合間にも、
私たちの演奏会には欠かさず来聴して下さる、ありが
たい友人です。

あらためて、本書から著者略歴を拝見すると、以下の
通りに記されています:(...)キューバ友好円卓会議のメ
ンバーとして市民レベルでのキューバとの交流・連帯活
動に参加。ピースボートのコーディネーター、水先案内
人、通訳として数回キューバを訪問。地域での数多くの
ボランティア活動に参加している。訳書に『エルネスト・
ゲバラ』(海風書房)ベンポスタ子ども共和国駐日大使。

数あるゲバラ関連の本の中でも、これはゲバラの娘ア
レイダさんが、昨年5月に来日された時のホットな内容
で、その2週間の滞在のあいだ、彼女にピッタリ寄り添
って案内して回られた星野さんによる、読みやすくスマ
ートで、かつ現在の日本にまことに有益な警鐘に富んだ
内容の好著です。

[本書の成り立ち]によると、チェ・ゲバラの娘で小児
科医のアレイダ・ゲバラさんは、2008年5月14日から
28日まで「アレイダ・ゲバラさん招聘実行委員会」の招
きで来日。本書の第一部では、滞日2週間のあいだに行
われたアレイダさんの講演記録と講演参加者との質疑、
および講演の際に行われた何人かとのトークを収録。第
二部は、アレイダさんの通訳をつとめ訳文を作成した星
野さんによる、招聘にいたる経緯、滞日中の日誌と解説
などから成っています。

第一部 父ゲバラとともに、勝利の日まで

アレイダ・ゲバラ講演と対話

- 第1話 「ティオ、パパと何を話したの？」
- 第2話 私たちには、歌い、踊り、笑い、愛する時間がある
- 第3話 尊厳のある平和のために
- 第4話 子どもたちは愛されていることを知っている
- 第5話 キューバの医療制度と国際連帯
- 第6話 キューバの生きる道は自分で決める
- 第7話 「ぼくの敵にも白い薔薇をあげよう」
- 第8話 世界の苦痛に敏感であってほしい
- 第9話 アレイダ 社会主義を語る
- 第10話 日本のみなさん、ありがとう

第二部 アレイダ・ゲバラさんの2週間。これは、[成り立ち]に引いたとおりですが、なかでも「3」の「アレイダさんと出会うまで キューバへの道のり」から「あとがき」の星野さん自身の肉声を、同じ時代の空気を吸っていた経緯もふくめ、個人的には面白く聞かせていただいたことを告白しましょう。

2007年はボリビアでのゲバラの死から40年、2008年はゲバラの生誕80周年、そして2009年の1月1日は革命50周年記念日。

かつて私たちの世代が「若者」だった頃には、たとえばゲバラのような「カッコいい」、まぶしいようなお手本があって、「世の中、ひょっとしたら変えることができるかも」と、ずっと先を見つめながら「夜明けは近い～」などと歌っていたものだけれど、翻って今の時代、若者だけでなく大人までが、世の中変わることをなんてない、所詮、何をやって無駄さ、とハナからあきらめている風情だ。若者たちに明るい未来などないような社会しか残せないのは私たちの責任でもある。どうしたものか。あのゲバラの言葉をもう一度聞きたい。………(本書274頁)

この本成立のきっかけとなったのは、上のような、ご友人や本書の出版社の方々との語らひだった、と「あとがき」の冒頭にありました。(恵)

(2009年1月、同時代社刊)

12月の特別演奏会 予告

世田谷中央教会 新会堂建築のためのチャリティ演奏会

日時：2009年12月5日(土) 16時開演

会場：世田谷中央教会

出演：鏡 孝之(T)、山田恵美子(FI)、内山亜希(Pf)

モテット第1番《主にむかいて歌え 新たな歌》

教会カンタータ第124番《イエス ともにあらん》

クリスマス・オラトリオ第 部《この地に野宿して》

かねてよりご案内してきました通り、12月は定期演奏会の代わりに、教会での特別演奏会を催します。5月17日の荻窪教会の演奏会が好評だったこともあって、きっとこの企画も皆様のご賛同が得られることと思います。目白聖公会と同様、世田谷中央教会も、私たちの練習をずっと支えてきていただきましたので、その恩に報いる気持ちで、考えました。後日あらためてご案内いたします。

東京バッハ合唱団出版局からご案内

出版局のホームページ「バッハを日本語で歌う」を開設しました。 <http://www.ac.auone-net.jp/~bach2/>

内容目次

- 1 「バッハ・カンタータ50曲選」 / 新規シリーズ
・曲目と楽譜の一覧・発刊の趣旨・訳詞者・お取り扱い/問い合わせ
- 2 推薦文
・中山悌一・杉山好・佐々木正利・佐々木まり子
- 3 新聞雑誌紹介
・共同通信配信・朝日新聞・こころの友・日本経済新聞・読売新聞・東京新聞
- 4 バッハ訳詞演奏の意義(大村恵美子)
・原詞か訳詞か?・モテットの原語上演・カンタータの日本語演奏(「礼拝と音楽」)・バッハの心、日本語で歌え(日本経済新聞)

とくに 4 の「バッハ訳詞演奏の意義」は、当合唱団の活動指針を述べたものが、ほぼ10年ごとに並べられています。ご一読いただければ幸いです。



荻窪音楽祭での演奏
2009年5月17日(日) 日本キリスト教団荻窪教会にて

